

広域運送事業協同組合がドライバー安全運転研修会を開催

エコドライブのポイントを学び、全員が燃費向上を達成



9社から25人が参加

広域運送事業協同組合(広運協、樋口恵一理事長)は、1月28日、第8回ドライバー安全運転研修会をいすゞ自動車藤沢工場の「いすゞプ

レミアムクラブ」で開催し、組合員9社(川崎陸送、協運社、ケーティーライン、高運送、高取ロジステイクス、都留貨物自動車、東京ロジネット、山梨総合運輸、ロジバルエクスプレス)のドライバー25人が参加した。エコドライブ運転指導を受けた後のテストコースの走行では、参加者全員が通常運転時と比べて燃費向上を達成。平均燃費向上率は25%となり、エコドライブの効果を確認できた。

た研修を実施した。

研修内容は、同一コースを同一車種で2回走行し、エコドライブの効果を検証するもの。まず、テストコースを日常運転で走行し、VTRでエコドライブの6つのポイントを学んだ後、①早め早めのシフトアップ②高速段の多用③一定速運転の励行④エンジンブレーキの活用――の4つに注意しながら2回目の走行を行った。

いすゞのデジタルタコグラフを活用した「みまもりレポート」で2回の走行を比べた結果、平均で25・3%燃費が向上。最高記録は山梨総合運輸(本社・山梨県甲斐市、沖山猛社長)の樋幹生氏で、1回あたりの走行距離が10・31キロ。同社の西靖男氏も10キロ台で、「テストコースとは言え、驚異的な記録」といすゞ関係者も目を見張っていた。

最後のプログラムとなった日常点検の研修終了後、樋氏が代表でエコドライブ講習の認定修了証を受け取った。

広運協では、「組合員1社ではできないドライバー研修を組合の規模を生かして実施する」という「割り勘」の発想で、一昨年から安全運転研修会をスタート。安全研修委員会を中心に各種研修を企画・運営しており、今回は組合員から要望が多かったエコドライブに重点を置き

ロジバルエクスプレス(本社・東京都葛飾区、馬場範夫社長)の林一義シニアエキスパートが講師を行い、「エコドライブは環境、会社の経営にやさしいだけでなく、安全運転につながる。実際の道路でもエコドライブを思い出し、最終的には体得できる域に達してほしい」と締めくくった。